

守山企業景況調査報告書

(第19回)

平成26年4月～平成26年6月期 実績

平成26年7月～平成26年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 26 年 4 月～平成 26 年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	19	95.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	18	90.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	66	93.0%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 26 年 4 月～平成 26 年 6 月、見通しを平成 26 年 7 月～平成 26 年 9 月とし、調査時点は平成 26 年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 26 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 26 年 4 月～6 月期の調査結果では、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの主要 4 項目全てで悪化した。

<業況>

業況 DI は▲23.1 と前回調査に比べて 24.6 ポイント低下した。業種別では、小売り▲36.8、製造▲41.7、サービス▲23.5、卸売り▲33.3、建設 27.3 であり、建設業以外の業種でマイナスの数値となった。

7 月～9 月期見通しでは、全体で▲20.3 とほんの僅かに数値が上向いている。

<売上高>

売上高 DI は▲24.2 で前回調査と比べると 45.9 ポイント低下した。業種別では小売り▲52.6、サービス▲33.3、卸売り▲66.7、製造 8.3、建設 27.3 で製造業と建設業はプラスであったものの、その他の業種はマイナスの数値であった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲10.8 で 4 月～6 月期実績よりも数値が上昇している。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲33.8 となった。業種別では、小売り▲42.1、製造▲50.0、サービス▲47.1、卸売り▲33.3、建設 18.2 であり、建設業以外はマイナスの数値であった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲24.6 と今回調査よりは高い数値となっている。

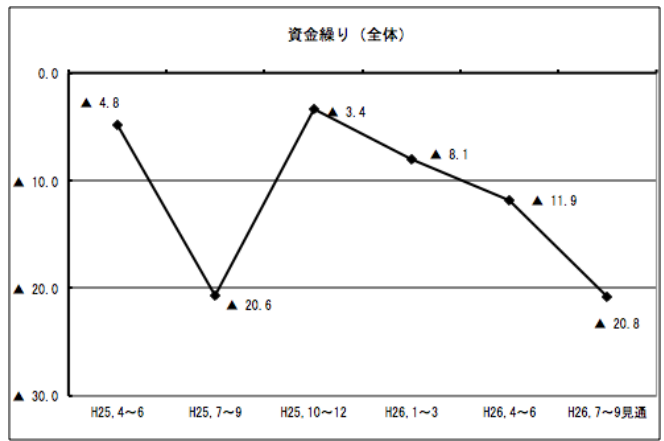
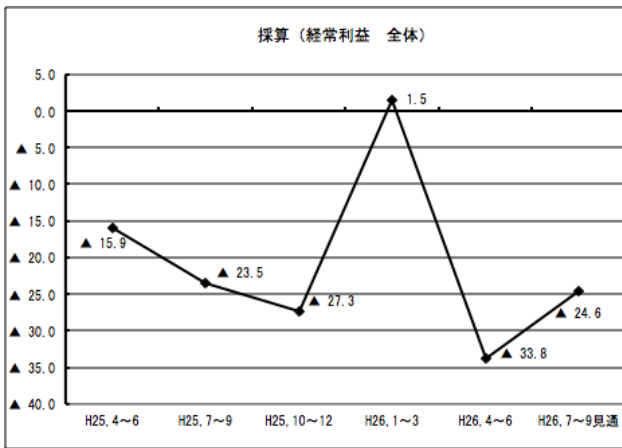
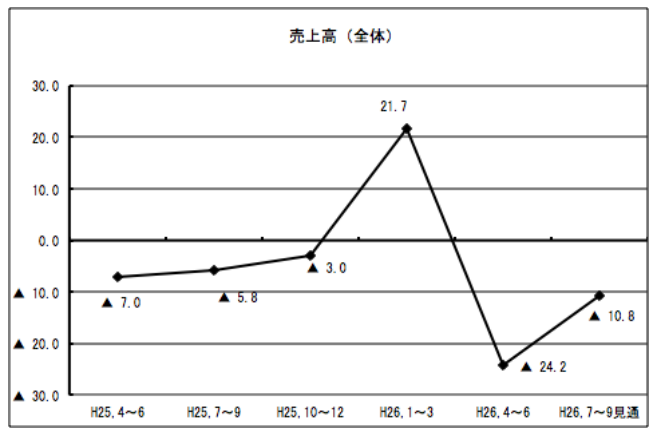
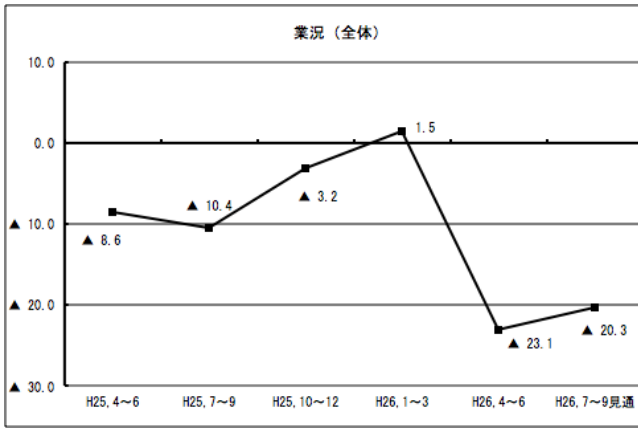
<資金繰り>

資金繰り DI は▲11.9 と前回調査に比べて僅かに低い数値となった。業種別では、小売り▲23.5、製造▲20.0、サービス▲20.0 の 3 業種がマイナスの数値となり、卸売りは 0.0、建設は 18.2 となった。

7 月～9 月期見通しでは、全体で▲20.8 と今回調査よりも低い数値となっている。

<その他の意見>

- ・若い人への所得配分がなされると少しは晩婚化対策につながると思う。
- ・中小零細企業、一般家庭にはまだまだ先が見えてこない状況であり、まず大手企業から請負金額を経済情勢を見据えて適正化すべく行政指導が望まれる。



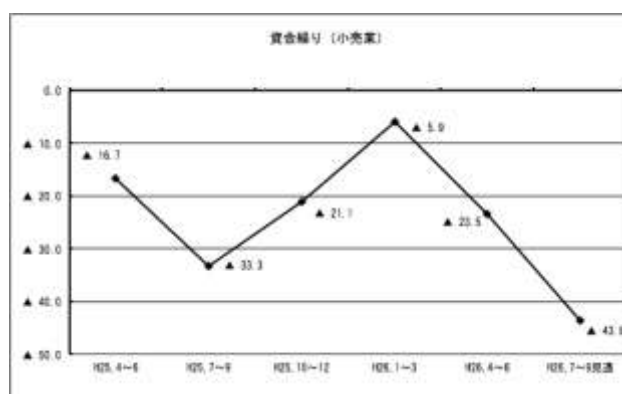
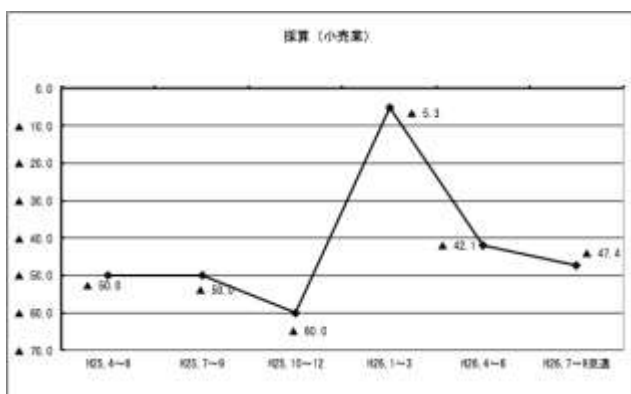
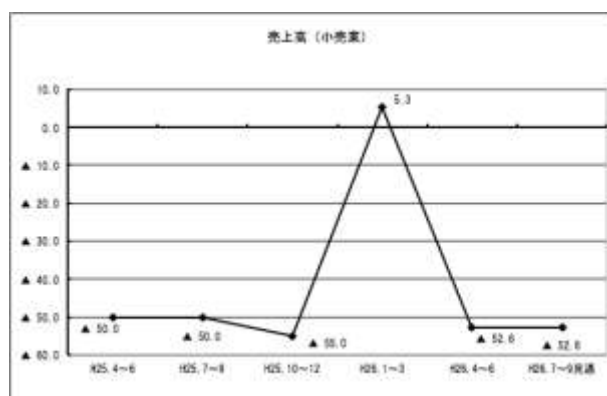
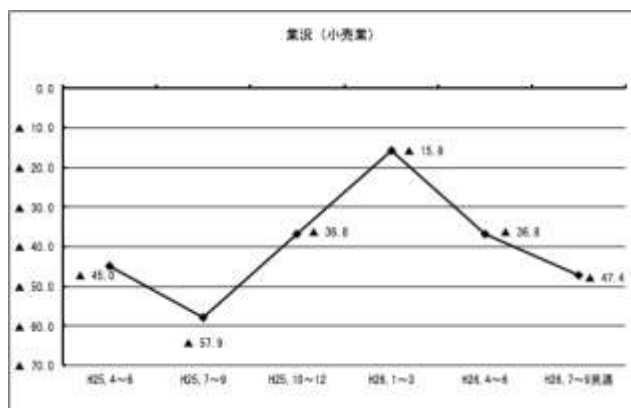
小売業

小売業の業況DIは▲36.8と前回調査に比べて21ポイント低下した。平成25年10月～12月期と同じ数値である。7月～9月期見通しでは▲47.4と数値が悪くなっており、小売業の業況判断はかなり厳しいと言える。

売上高DIは、▲52.6と前回調査に比べて57.9ポイントの大幅な低下である。前回調査でプラスの数値領域に達したが、今回調査では再びマイナスとなり、これは平成25年4月～6月期から平成25年10月～12月期の水準と同じレベルである。逆にみると、前回調査時のみ一時的に売上高がよかったとも言える。7月～9月期見通しも▲52.6であり回復の見通しは立っていない。

採算DIは、▲42.1であり、前回調査より36.8ポイント低下した。採算も売上高と同様の傾向を示しており、前回調査時点のみ一時的に採算がよかったと考えられる。特に今回調査では商品仕入れ単価の上昇を示す数値が出ており、採算に影響を与えていると思われる。7月～9月期見通しは▲47.4で、さらに採算が悪化するような見通しである。

資金繰りDIは▲23.5と前回調査に比べて17.6ポイント低下している。これも前回調査時点が特異的な数値と見ることができると考えられる。7月～9月期見通しは▲43.8とさらに資金繰りの悪化が懸念される。



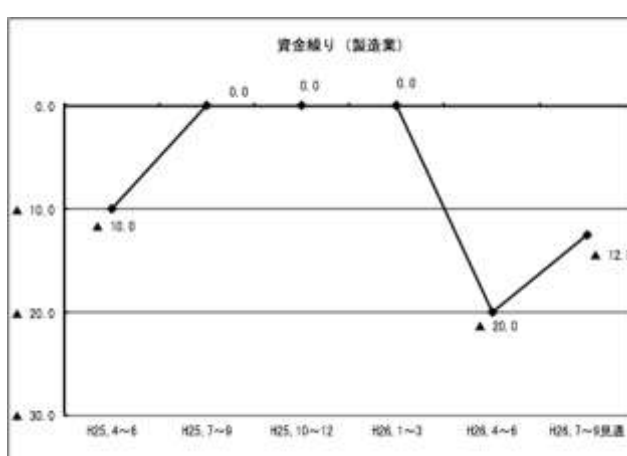
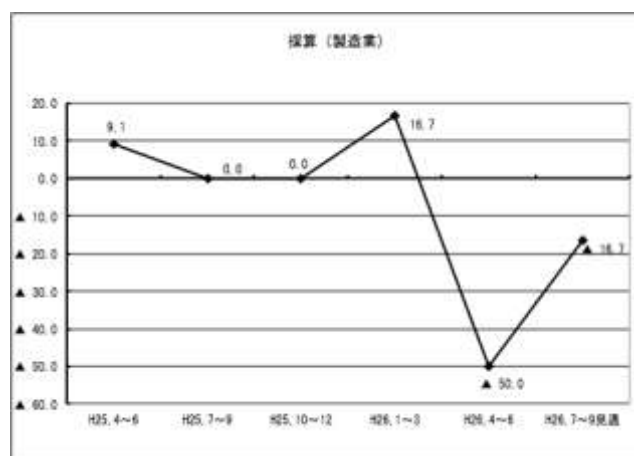
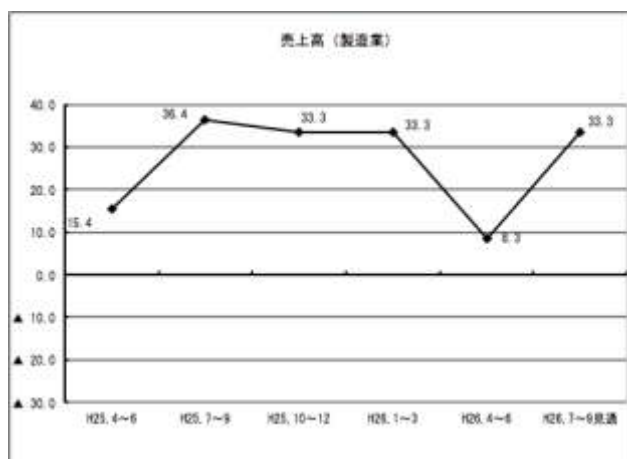
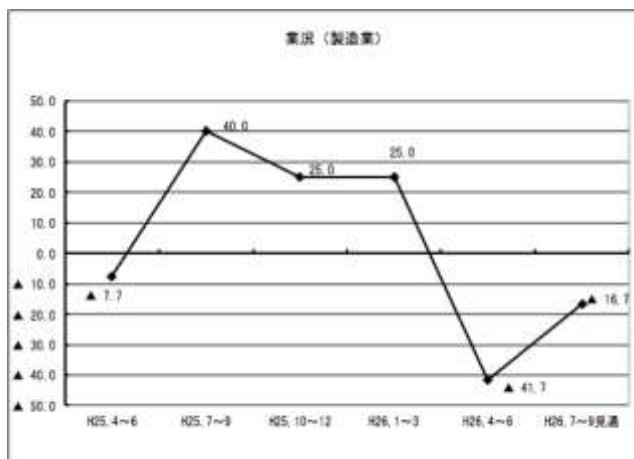
製造業

製造業の業況DIは▲41.7と前回調査に比べて66.7ポイントの大幅低下である。1年ぶりにDIがマイナスとなったが、今回の数値は1年前に比べても34ポイント低く今回調査時点の採算がいかに低くなったかがわかる。7月～9月期見通しは▲16.7とかなり持ち直している。

売上高DIは8.3と前回調査と比べて25ポイント低下した。過去1年では最も低い数値であるが、プラスの数値となっており業況ほど売上高は悪化していないように見える。7月～9月期見通しは33.3と前回調査時点並に回復している。

採算DIは▲50.0と前回調査に比べて66.7ポイント低下した。5四半期前に採算DIが▲66.7となって以来の悪い数値である。7月～9月期見通しは▲16.7と33.3ポイント上昇しており、採算の悪化は一時的であるかもしれない。

資金繰りDIは▲20.0となり、前回調査より20ポイント低下した。大きな動きを見せないことが多い資金繰りDIが20ポイントも動いたことは珍しく、一部に資金繰り不安が出ている可能性がある。7月～9月期見通しは▲12.5と数値は上昇している。



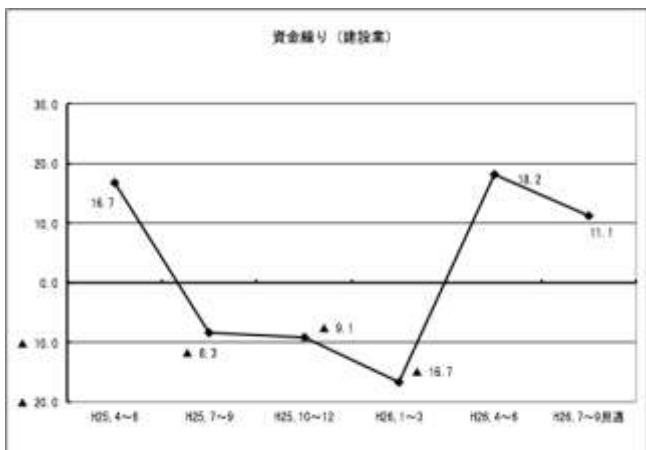
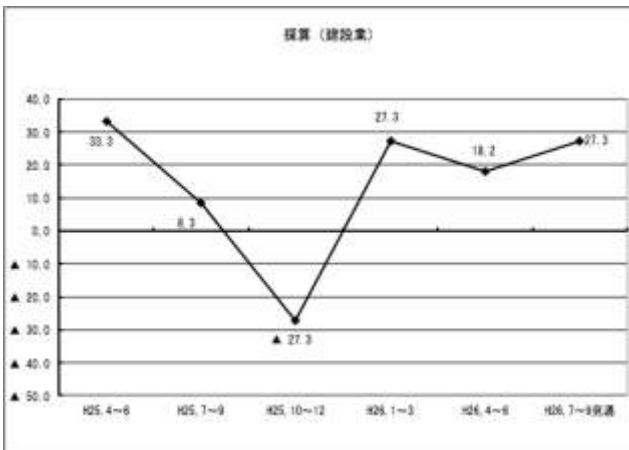
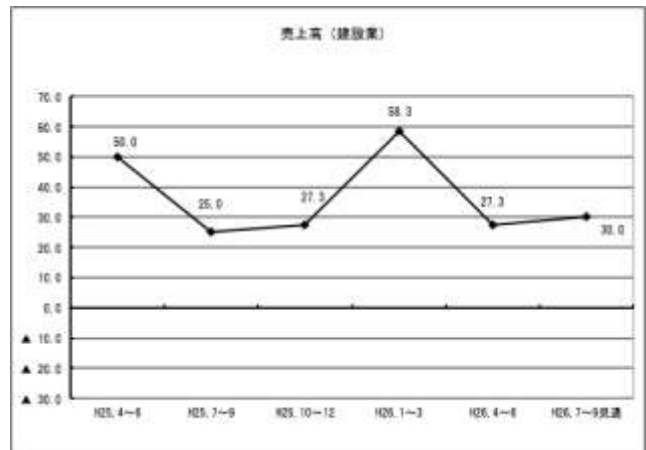
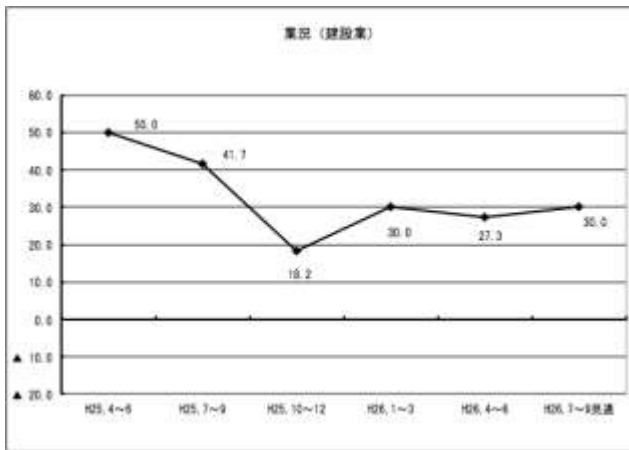
建設業

建設業の業況DIは27.3であり、前回調査より2.7ポイント低下した。過去1年以上プラス領域の数値が続いており、建設業は業況が良いと判断できる。7月～9月期見通しも30.0で好調はこの先も続きそうである。

売上高DIは27.3となり前回調査より31ポイント低下したものの、やはりプラス領域であり、平成25年7月～9月期、同10月～12月期と同程度の数値であり大きな悪化とまでは言い難い。7月～9月期見通しも30.0で大きなお着込み等は見られていない。

採算DIは18.2であり、前回調査に比べると9.1ポイントの低下であるが、2四半期連続でプラス領域の数値となった。業況、売上高と同様に採算でも好調が維持されていると考えられる。7月～9月期見通しも27.3と採算はより良くなる方向である。

資金繰りDIは18.2となり前回調査より34.9ポイント上昇した。4四半期ぶりのプラス領域の数値である。また、7月～9月期見通しも11.1で資金繰り面も不安がなさそうである。



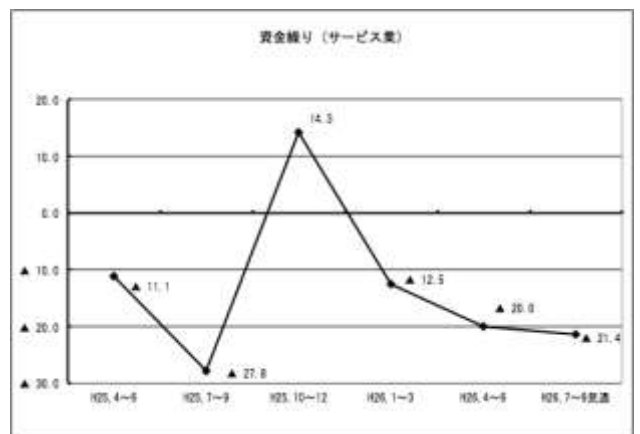
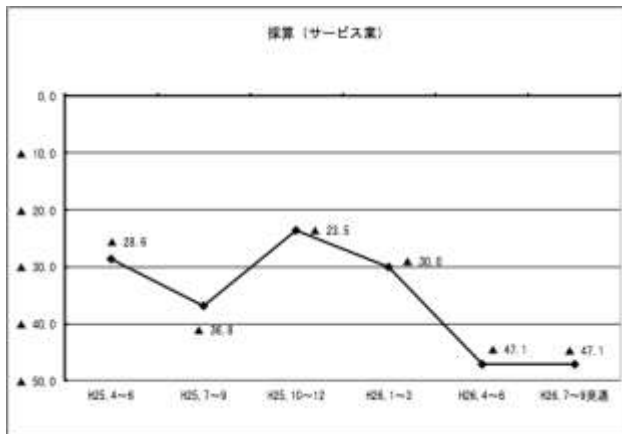
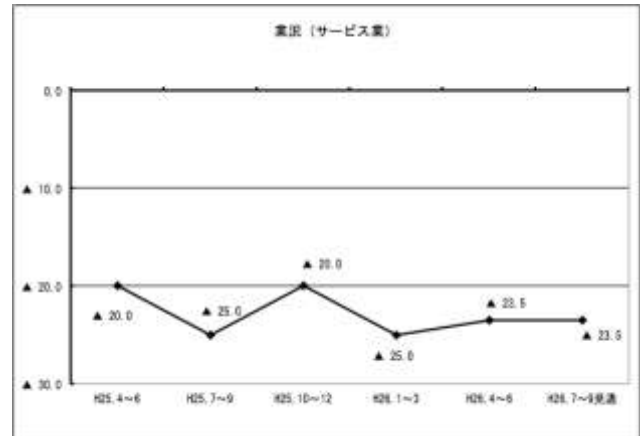
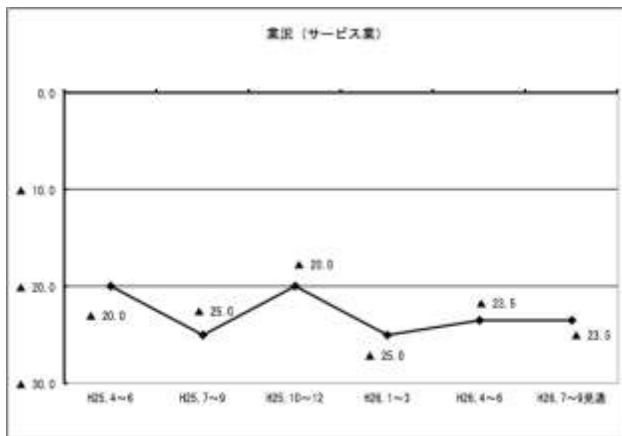
サービス業

サービス業の業況DIは▲23.5と前回調査より1.5ポイント上昇した。サービス業の業況DIは過去1年以上▲25の前後から離れることなく推移しており、今回も同様の結果になったといえる。7月～9月期見通しも▲23.5と今回調査と同数値でありこの傾向はまだ続きそうである。

売上高DIは▲33.3で前回調査より33.3ポイント低下した。前回調査で1年間かけて0.0まで回復したのであるが、結果的に1年前と同じ所まで逆戻りしてしまった。7月～9月期見通しは▲11.1と反転の見通しであるので再度回復傾向に戻る可能性もある。

採算DIは▲47.1となり前回調査より17.1ポイント低下した。この数値は過去1年間でも見られない低い値であり、採算は一気に悪化していると考えられる。7月～9月期見通しも▲47.1なので、採算の良化は見込めない厳しい状態である。

資金繰りDIは▲20.0と前回調査より7.5ポイント低下した。2四半期前に14.3となって以来数値の低下が続いており、7月～9月期見通しも▲21.4となっているので資金繰り不安が再燃している可能性もある。



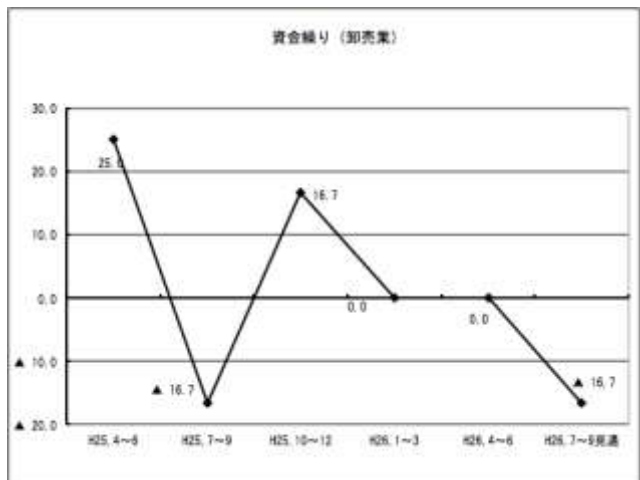
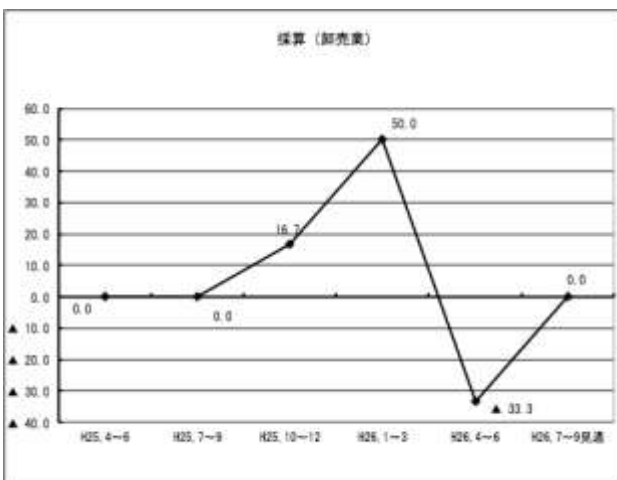
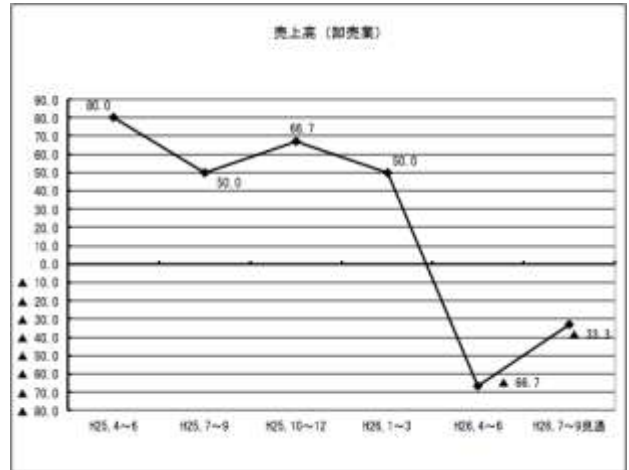
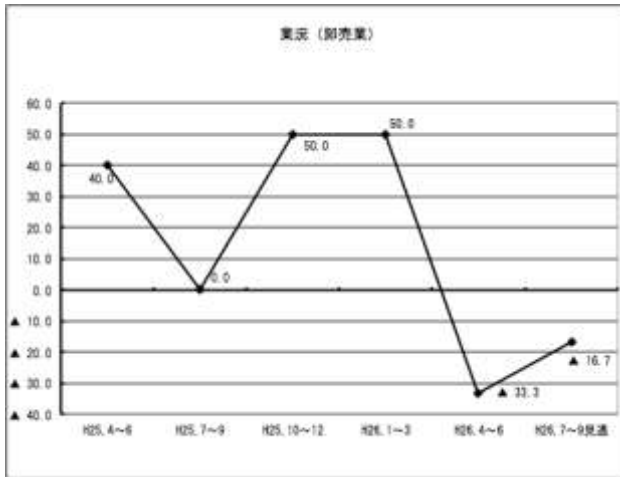
卸売業

卸売業の業況DIは▲33.3と前回調査に比べて83.3ポイント低下した。過去4回の調査では業況が悪いと判断されることがなかったが、今回調査では一気に悪くなった。4四半期振りのマイナス領域の数値である。7月～9月期見通しも▲16.7であるので、まだ業況が好転とまでは行かないが、回復の見込みも十分にある。

売上高DIは▲66.7で前回調査が50.0であったので、116.7ポイントの低下である。前回調査と比べると全く逆の数値が出たと考えられる。つまり、個別の調査結果で良いとする回答数と悪いとする回答数が全く逆になりさらに悪いとする回答数が増えた結果によるものである。7月～9月期見通しは▲33.3であり、この結果から少しよくなる見通しである。

採算DIは▲33.3で前回調査より83.3ポイント低下した。売上高DIと同様のことが起こっていると考えられる。7月～9月期見通しは0.0なので採算に関しては持ち直しの見込みである。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。7月～9月期見通しは▲16.7でマイナス領域になっているが、卸売業の資金繰りDIは過去からこのような動きをするので、通常の動きの範囲と考えることができる。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期 動向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲23.1	▲20.3	▲24.2	▲10.8	▲33.8	▲24.6
小売業	▲36.8	▲47.4	▲52.6	▲52.6	▲42.1	▲47.4
製造業	▲41.7	▲16.7	8.3	33.3	▲50.0	▲16.7
建設業	27.3	30.0	27.3	30.0	18.2	27.3
サービス業	▲23.5	▲23.5	▲33.3	▲11.1	▲47.1	▲47.1
卸売業	▲33.3	▲16.7	▲66.7	▲33.3	▲33.3	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲4.5	6.2	▲23.4	▲17.2	3.3	▲4.9
小売業	▲10.5	▲10.5	▲58.8	▲52.9	▲12.5	▲25.0
製造業	8.3	41.7	8.3	8.3	30.0	20.0
建設業	36.4	50.0	18.2	27.3	18.2	9.1
サービス業	▲33.3	▲33.3	▲33.3	▲38.9	▲5.6	▲16.7
卸売業	0.0	33.3	▲33.3	0.0	0.0	16.7

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲11.9	▲20.8	3.8	▲3.8	4.1	0.0
小売業	▲23.5	▲43.8	▲14.3	▲35.7	▲25.0	▲33.3
製造業	▲20.0	▲12.5	10.0	0.0	10.0	0.0
建設業	18.2	11.1	33.3	33.3	44.4	44.4
サービス業	▲20.0	▲21.4	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	▲16.7	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

